

防 除 情 報

平成17年7月1日
長崎県病虫害防除所長

平成17年度病虫害発生予察 防除情報第7号

なし、びわ ナシヒメシンクイの防除対策について

ナシヒメシンクイの発生が多くなっています。7月は重要な防除時期になりますので、下記の点に留意して防除指導をお願いします。

記

1. 発生状況

- (1) フェロモントラップの誘殺量は、4月以降現在まで多い状況が続いている(図)。
- (2) 平年の梅雨期である6月中旬以降の雨量が非常に少なく、本虫の増殖にとって好適な条件が続いている。
- (3) 6月下旬の県予察圃場びわの調査によると被害枝葉率2.0%(平年0.1%)であった。
- (4) 第1世代成虫の発生最盛期は、6月2半旬で平年並であった(諫早市)。

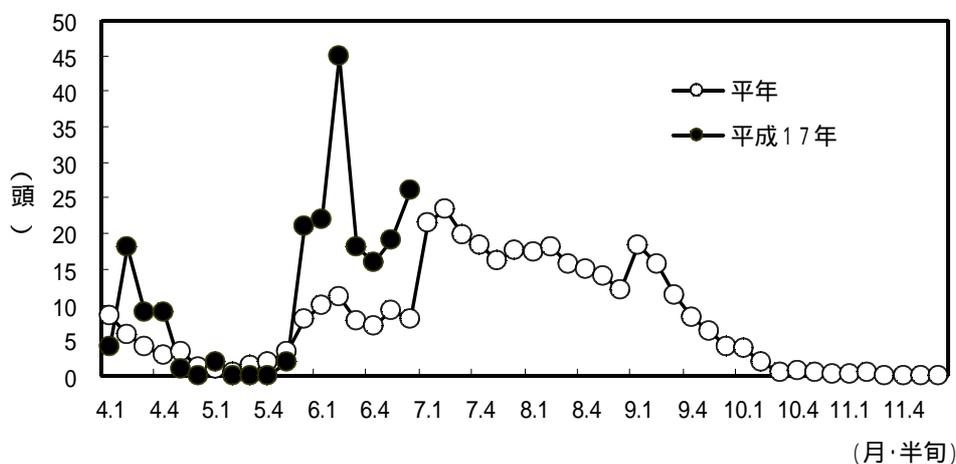


図 ナシヒメシンクイの誘殺状況(諫早：フェロモントラップ)
* 平年値は平成7～16年の平均

2. 防除対策

- (1) 諫早市での第1世代成虫の発生最盛期以降の気温は、平年よりやや高めに推移しており、第2世代の成虫発生最盛期は平年(7月第1～2半旬)並かやや早いと予測される。防除適期は成虫発生最盛期当日～7日後なので、7月2～3半旬に薬剤散布による防除を行う。
- (2) 薬剤散布後も発生が多いなし園では、その後も10日おきに薬剤散布による防除を行う。

- (3) 交信攪乱剤による防除を実施しているなし園では、基本的に防除の必要はないが、例年発生が多い園では薬剤による防除を追加する。
- (4) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため同系統の薬剤を連用しない。
- (5) 薬剤散布に当たっては、使用基準を遵守する。